



本日の例会：2023 年 2 月 17 日 通算 1668 回 本年度 第 27 回 会場：ANA インターコンチネンタルホテル東京 37F「アリエス」

卓話：イニシエーションスピーチ 高窪 祥文 氏

● 第 1667 回 例会報告 2023 年 2 月 10 日

出席報告：会員 51 名 / 出席 27 名

ゲスト：田母神俊雄、田代充

梁取慎也、板垣修一郎

計 4 名（敬称略）

卓話：「転落をし続ける日本」

軍事評論家 田母神 俊雄 氏



紹介者：長谷川会員

会長報告

- ① トルコ大地震は東日本大震災以来の大きな被害となりましたこと心痛むばかりです。
- ② みなと R C より江戸城再建署名のお願いがあり用紙を回しておりますので、よろしかったらご署名ください。
- ③ 4/14 福山赤坂ロータリー姉妹クラブ締結 10 周年イベントの参加者を募っております。
- ④ 4/28 の台北東海ロータリー友好クラブ締結式の参加者を募っております。よろしくお願い申し上げます。
- ⑤ ビジョンローターアクトの紹介は、2/21 の地区大会で行うことになりました。



2月 10日 15件 43,200 円 累計 980,200円
多額の寄付を有難うございました。（敬称略）

穂苅裕久/谷口友保/ティエリ・コンシニ/土屋東一/
入沢頼二/岩上義明/小林博滋/藤井万博/高窪祥文/河
邊幸夫/石原康行/佐藤仁/金山驍/西澤民夫/火曜会

今 後 の 予 定	日 付	開始時間 終了時間	場 所	事 項	内 容
	2 月 21 日	13:00	グランドプリンス ホテル新高輪	地区 大会	地区大会 本会議 13:00～ 場所：グランドプリンスホテル新高輪 国際館 パミール
	2 月 24 日		休 会 2/21(火)地区大会振替		
	3 月 3 日	12:30 13:30	B1F オーロラ ANA インターコンチネンタルホテル東京	例 会	卓話：「日本の戦没者遺骨収集とこれから」 日本青年遺骨収集团会長 赤木衛 氏
	3 月 7 日	18:00	場所：未定	火曜会	火曜会
	3 月 10 日	12:30 13:30	B1F オーロラ ANA インターコンチネンタルホテル東京	例 会	卓話：イニシエーションスピーチ 中田仁之 氏
	3 月 17 日	12:30 13:30	B1F オーロラ ANA インターコンチネンタルホテル東京	例 会	卓話：ネットフリックス デイレクター ビジネス デベロップメント 下井 昌人 氏
	3 月 24 日	12:30 13:30	B1F オーロラ ANA インターコンチネンタルホテル東京	例 会	未定

国際ロータリー情報 RI 会長エレクトが 2023-24 年度会長テーマを発表 『CREATE HOPE in the WORLD』 『世界に希望を生み出そう』

2023～24 度国際ロータリー会長ゴードン R. マッキナリー氏（サウス・クイーンズフェリー・ロータリークラブ、スコットランドの会員である）は、1 月 9 日、米国フロリダ州オーランドで開催中のロータリー国際協議会で講演し、2023-24 年度会長テーマ「世界に希望を生み出そう」を発表しました。この講演でマッキナリー氏は、問題を抱える国で平和を推進し、紛争の影響を受けている人びとを助け、過去のリーダーたちが始めたイニシアチブを引き継いでいくよう会員に呼びかけました。また、世界の注目を集め、現在の期待をはるかに超える可能性を切り開いていくことを求めました。

「私たちの目標は、破壊的な紛争から世界が立ち直れるように、希望を取り戻すことです。そうすれば、私たち自身のために持続可能な変化をもたらすことが可能となります」とマッキナリー氏は述べました。

また、タイで出会った一人の女性の話を紹介しました。そこでは、2004 年末に南アジアを襲った津波の後で、ロータリー会員が家屋や集会場、保育・医療施設の建設にあたっていました。津波で夫、娘、息子を失くし、生計手段も失ったというその女性は、マッキナリー氏にある物をプレゼントしました。それは、美しい貝殻でした。

「彼女は、ロータリーのおかげで前向きな気持ちを取り戻すことができたと話していました。私たちは彼女に希望を与えたのです」とマッキナリー氏。「これこそ、ロータリーが世界にもたらしている変化です。この変化が、一つずつ希望を取り戻し、新たな希望を生み出しています」

平和の推進

世界に希望を生み出す重要な方法となるのは、平和に重点的に取り組むことだとマッキナリー氏は述べ、過去 1 年間、ロシア軍による侵攻を受けたウクライナの人びとを支援するためにロータリー会員が行動してきたことに言及しました。ロータリーが人道的支援に力を入れたことで、ウクライナでのロータリー会員数は増えています。しかし、ウクライナだけでなく、イエメン、アフガニスタン、シリアをはじめ世界の多くの地域で平和が実現しない限り、本当の安らぎはないと指摘しました。

「平和とは、希望が根づくための土壌です」とマッキナリー氏。

継続の力についても強調し、過去のリーダーの取り組みを継続するよう会員に呼びかけました。自身も、シェカール・メータ 2021-22 年度会長が立ち上げた「女兒のエンパワメント」イニシアチブを継続し、ロータリー全体で多様性、公平さ、インクルージョンを強調し続けていくことを約束しました。また、ポリオ根絶への継続的な取り組みの重要性を物語る最近の一連の出来事にも触れました。過去 1 年間、世界各地でポリオ症例が再発しており、ロータリー会員がポリオ根絶活動をリードすることが今まで以上に重要となっています。

このため、ロータリーが毎年 5,000 万ドル以上を集め、ビル&メリンダ・ゲイツ財団からの 2 倍額の上乗せ資金を確保しなければならないとマッキナリー氏は話しました。現在、ポリオ根絶に寄付している会員は約 12 人に 1 人に過ぎず、毎年寄付しているクラブも 5 分の 1 を下回っています。

マッキナリー氏は、「ポリオのない世界」というロータリーのビジョンを実現するために、クラブの中に新たな緊急感を生み出すよう地区ガバナーエレクトの協力を求めました。「各年度に何をすべきかではなく、それを超えて考えるべき時が来ています。できるだけ早く実現するために必要なあらゆるリソースを、私たちが提供していかなければなりません」

メンタルヘルスへの取り組み

マッキナリー氏はさらに、新型コロナウイルスの世界的流行によって深刻化しているメンタルヘルスの問題の影響を受けている人たちに、ロータリー会員が希望を与えるべきだと述べました。多くの人が家族を失い、社会的つながりを断たれ、特に若い人たちの教育や育成が妨げられています。その結果、世界でメンタルヘルスの問題に直面する人が増えています。しかし、助けを求めることは弱さの現れであると考えられることが少なくありません。

「真実から目をそむけることはできない」とマッキナリー氏。「助けを求めることは勇気ある行動です。健康と幸せにいたる道を求めることは、さらに勇気が要ることです」

次年度以降、ロータリーはメンタルヘルスサービスの改善に取り組んでいくとマッキナリー氏は続け、ロータリーは会員と奉仕を受ける人の両方を支える組織として知られるべきだと述べました。「メンタルヘルスの専門家なら誰もが口をそろえてこう言うでしょう。ほかの人を助けることで、本質的に自分自身が助けられるのだ、と」

講演の最後には、継続と革新の理想的なバランスについて述べました。「ロータリーは、平和、機会、生きる価値ある未来の土台を築いています。私たちが得意とすることを継続すると同時に、変化に対してオープンで前向きになり、世界と自分自身の中に平和を築くことに力を注げば、ロータリーはより平和で、より希望のある世界を築く手助けができます」